

海女

志摩半島は日本でもっとも海女の多いところです

海女は自然なる海を働き場に、海の環境を大切にしながら、資源をとり尽くさない努力を3千年以上もつづけてきました。

潜りつづけて3千年 —長い海女の歴史

志摩半島の縄文・弥生時代の遺跡から、アワビ殻やアワビを岩から剥がすアワビオコシという道具が出土するので、潜水してとる人がいたのは確かです。しかし、女性であることがはっきりするのは8世紀に「潜女」の文字が文献に現れてからです。その後、時代がさがって18世紀になると、浮世絵などに絵が描かれるようになります。そして現在まで、伊勢神宮にアワビなどの海産物を差上げる大切な役目を海女は果たしています。このように3千年以上にわたって海女独特の文化は継承されています。

木簡

天平 17 (745) 年の平城宮跡出土の木簡で、「鯨」が志摩国波切から奈良へ送られていたことが判る。

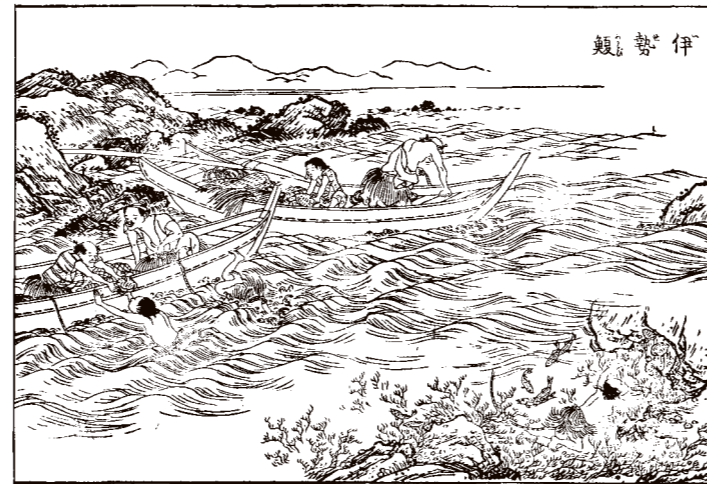


鹿角製のアワビオコシ

鳥羽市浦村の白浜遺跡から出土したBC2000年頃のアワビオコシ。

伊勢の海士長鮑制之図

江戸時代に描かれた浮世絵で、海女がノシアワビを作っている。



日本山海名産図会 (寛政 11 年 / 1799 年) 海で働く海女を描いた最初の図。当時、志摩も伊勢と思われていた。



三重県水産図解 (明治 16 年 / 1883 年) 水産博覧会に出品された絵図で、焚火で暖をとる海女が描かれている。



大正・昭和初期の絵葉書 大正から昭和初期になると、海女は観光の上でも注目された。

大漁の願いと魔除け —信心深い海女

海女は漁期のはじめや途中で、海の神様に大漁や操業の安全を願って、おまつりをします。なんといっても海女の一番の願いは大漁ですが、たくさんの獲物をもたらしてくれる自然の海は、いつも静かで優しいとは限りません。海には危険な魔物も多くひそんでいると海女は考え、神様に助けを求め、潜水作業の無事を願います。



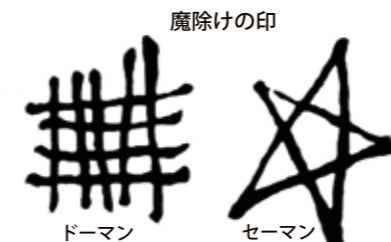
浜祭り (志摩市布施田)



しろんで祭り (鳥羽市曹島)



潮かけ祭り (志摩市和具大島)



「ドーマン」(修験道の呪符・九字)と「セーマン」(一筆書きの星印)は志摩半島の海女が付ける独特の魔除けのマーク。

海女の数

現在、日本列島には18県に約2000人の海女がおり、うち三重県の志摩半島(鳥羽市・志摩市)に761人(2014年)がいます。しかし、高齢化が進み平均年齢は65歳を超えています。



●志摩半島にいる海女 761人 (鳥羽市 505人、志摩市 256人)



海女文化国際発信事業実行委員会

海の博物館・志摩市歴史民俗資料館・鳥羽市・志摩市 平成 27 年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

海女



“海女”とは、素潜りでアワビ、サザエや海藻をとる漁をする女性です

海女は自然なる海を働き場に、海の環境を大切にしながら、資源をとり尽くさない努力を3千年以上もつづけてきました。

[海女文化をユネスコ世界無形文化遺産に!]

フナド（船人）とカチド（徒人）—漁のやり方

海女漁には、船でトマエと呼ぶ船頭と二人でするフナドと、陸から泳いで漁場に行き一人一人でするカチドがあります。カチドの中には船に乗り合って漁場へ行く海女もいます。ふつうフナドはカチドよりも深い海へ潜ります。



素潜り 50秒の勝負—海女の漁法

海女は潜水器具を使わず、アワビ、サザエ、ウニ、ナマコ、海藻をとる女性の素潜り漁師です。3～4メートルから、海女によっては20メートルくらいの海底まで潜ります。その潜水時間は長くて50秒です。



磯メガネとイソノミとウエットスーツなど—海女の道具

素裸や白衣を着る時代を経て、海女は寒さを防ぐため、1960年ころからウエットスーツを着るようになりました。ウエットスーツを着ると身体が浮くので、腰に5～8キログラムの重り付きのベルトを巻きます。



明治初期以前の海女

明治末から昭和初期の海女

ウエットスーツを着た最近の海女

海女の道具で大切なのは、水中が良く見え、獲物を見つけるのに必要な磯メガネ、そしてアワビを岩から剥がすイソノミです。イソノミには何種類もあります。とった獲物を入れておく以前の磯桶は、近年、タンポに変わり、ふつうに使われています。網袋を吊るした浮き輪で、浮上した海女の短い休憩を助けます。海女の身体とタンポを繋ぐイノチズナ（命綱）も大切な道具の一つです。その他にもイソテヌグイや足ヒレなどがあります。



イソオケ

イソダル

タンポ

磯メガネ

カギノミ

イソノミ



アワビ

海の豊かな恵み—多い海女の獲物

クロアワビ、メカイアワビ、マダカ、トコブシ（ナガレコ）の4種類のアワビは海女の漁獲物の中心です。サザエ、ナマコ、ウニ、イワガキ、磯もんと云われる貝類。そして、ワカメ、ヒジキ、アラメ さらにテングサ、フノリ、カヤモノリ（ケノリ・ムギワラ）、イロロなどの海藻を採っています。



サザエ



ワカメ



ナマコ



ウニ



ヒジキを採る海女たち



海女小屋

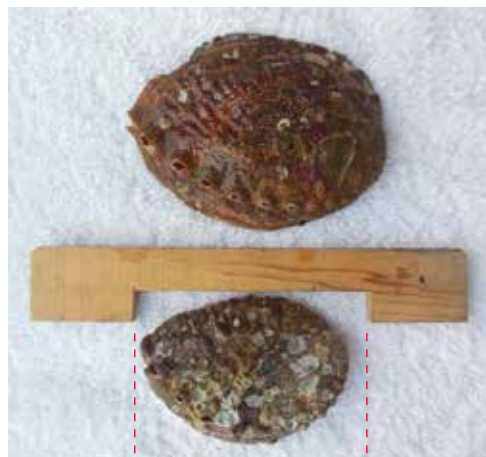
かまど、火場—今は海女小屋

海女の大敵は寒さです。今でも「かまど」とか「火場」と呼ばれる海女小屋の真ん中の炉で焚火をします。潜る前も潜った後も、直火に当たって体を芯から温めます。この海女小屋は海女にとって睡眠をとり、仲間と談笑し、食事を摂る大事な場所です。

とり尽くさない約束事—漁獲制限の数々

10.6センチより小さなアワビは禁漁で、海女は厳しく守っています。サザエやウニ、ナマコなども小さなものはとりません。また、海藻もアワビやサザエの餌になるので、とる期間や日数、場所などを決めて、とり尽くさない努力をしています。

約束事には、
 大きさの制限
 季節の制限
 日数の制限
 時間の制限
 禁漁場所の設置
 などがあります。



アワビと寸棒 10.6cm